

【センター見学編】

山元町防災拠点・山下地域交流センター「つばめの杜ひだまりホール」の岩佐所長と山元町の門間さんのご案内のもと施設を見学しました。

山元町防災拠点・山下地域交流センター「つばめの杜ひだまりホール」は、災害時には「町民の安全・安心を守る防災拠点」としての機能を、そして平常時には「地域の交流・活力を創造するための交流拠点」として活用されている施設です。避難所として活用する場合、約750名の避難生活が営める避難室や、備蓄倉庫も備えられています。

停電後も自家発電を利用すると72時間連続稼働が可能な赤いコンセントや



マンホールトイレ



⇒セッティングすると



ゆったりお年寄りも安心のトイレ

に。

こちらはかまどベンチ。





ベンチの下には、バーベキューのようなかまどがあって



避難施設として使う時には、3 階の調理室とあわせて炊き出しに使われるそうです。

また、断水しても飲み水を供給できるように約 4400 人分の 3 日分の水槽も備えられていました。

常用飲料水兼用...
 どの災害時に備え消火用水と飲料水を確保する耐震性貯水槽
 が建設されています。
 用水が不足する場合には消火用水として使用できます。

貯水槽概要図

からエンジン
 などとくみ上
 料水を供給す

管がこわれた
 防止する装置
 貯水槽内の水
 されています。

は、最低1人
 水が必要です。
 (40,000
 400人の3日
 ています。

接続されて
 な水が流れ

(財)日本消防設備安全センター認定品
 認定番号: 飲-10001-1号
 危機管理室 0223-29-8002
 上下水道事業所 0223-29-4951



自家発電の装置





避難所では寒さ対策をどうするかが重要なポイントに。



また避難所になった時に医務室として使われるのは、現・主催者控室です。





消防団が 24 時間待機できるようになっています。

こういった防災施設は、いきなり使おうと思ってもなかなかスムーズにはいかないものなので、普段から交流センターとして活用し慣れ親しんでおいて、いざ防災拠点になった際に馴染みやすいようにと、随所に工夫がされていました。

災害時には外の空気を吸ってリフレッシュ出来る屋上テラスにでると、強い風が吹き荒れていて、冬型の気圧配置も体感。遠くにはしぐれ虹も見えていました。





施設見学から戻ると、山元町名物はらこ飯のランチタイム。





見てください、この笑顔。大成功、間違いなし！でしょ（笑）
まさに、身もココロも満たしてからのイベント本番となりました。